

BULLY

ブリー

ちぎれた心が暴走する

Directed by **Larry CLARK**

Written by **Zachary LONG & Roger PULLIS**

Based on a novel by **Jim SCHUTZE**

starring ; **Brad RENFRO, Bijou PHILIPS, Rachel MINER, Michael PITT, Kelli GARNER** with **Leo FITZPATRICK** and **Nick STAHL**

Produced by **Don Murphy, Fernando Sulichin, Chris Hanley** / **MUSE PRODUCTIONS / BLACK LIST FILMS / STUDIO CANAL / LIONS GATE**



ラリー・クラーク監督作品 出演 ブラッド・レンフロ、レイチェル・マイナー、ニック・スタール、ビジョウ・フィリップス、マイケル・ピット、レオ・フィッツパトリック
2001年/アメリカ映画/カラー/111分/ヴィスタ/SRD/原作本「なぜ、いじめっ子は殺されたのか?」ジム・シュッツ著(集英社)

提供/東芝、アミューズピクチャーズ 配給/アミューズピクチャーズ Copyright : studiocanal France 2001 www.bully.jp



5月10日(土)より《衝撃》のロードショー!!

前売券¥1,500(税込)絶賛発売中!! (当日一般¥1,800、学生¥1,500のところ)

劇場窓口のみの特典!「プリコン」プレゼント!! 提供: ゴムじゃないコンドーム、サガミオリジナル

- 青春18割引実施!! (くわしくは劇場まで)
- GDC 熊谷隆志氏デザインによる「BULLY」オリジナルTシャツ劇場にて限定発売!!

シネセゾン 渋谷

渋谷道玄坂サ・プライム 6F Tel. 03-3770-1721
<http://webs.to/sibuya>

連日	11:45	14:10	16:35	19:00
公開初日5月10日(土)	ラリー・クラーク ナイト開催 23:30 open オールナイト上映			
■入場料金 ¥2500均一(当日20:00より 整理番号つきチケットを販売)	■ラリー・クラーク監督作品			
「KIDS/キッズ」他2本	■上映前に、小嶺麗奈さん(女優)、川勝正幸さん(エディター)他による対談			

大阪:テアトル梅田 06-6359-1080/名古屋:ヘラルドシネプラザ50 052-241-0936/福岡:シネテリエ天神 092-781-5508/兵庫:シネ・リーブル神戸 078-334-2126/京都:みなみ会館 075-661-3993/北海道:スガイシネプレックス札幌劇場 011-221-3802/仙台フォーラム 022-728-7866/山形フォーラム 023-632-3220/福島フォーラム 024-533-1717/盛岡フォーラム 019-622-4703 ※他順次公開。詳しくは各劇場まで。

伝説のクリエイター、ラリー・クラークが痛い十代の事件を描く!

『BULLY／ブリー』は南フロリダ郊外で現実起こった、ティーンエイジャー同士の殺人事件の映画化だ。親友でもあるいじめっ子を殺し沼に捨てるにいたった仲間たち。その幼さと退屈な毎日が招いた悲劇は僕らの胸に突き刺さる!!

——小嶺麗奈(女優)彼等が取った行動はおきるべくしておきてしまった。この世の中に対しての警告ともいえるリアルな映画だ。——松岡 充(SOPHIA)7人は現実から逃避、空想の中で最悪の罪を犯し、そして、自分達の未来によって裁かれた。この映画は現実だ。誰も現実という未来から逃げきれはしない。——オクダサトシ(アートスレー/コンドルズ)ホントにこいつら馬鹿で浅はかだと思うけど笑えない。あのとき沼地にいるハメになってたらオレも殺ってたに違いないからね。——TWIGY(ミュージシャン)2003年を迎えた今、「ブリー」は、文部科学省推薦の教育映画だ。——東田トモヒロ(ミュージシャン)美しくも無く、後味の悪い中にこそ語りかけられる真実味を見た。うそっぱちのSEX、うそっぱちの友情、うそっぱちの家族、うそっぱちの共同体、ドラッグスによるバッドトリップ、そしてうそっぱちの愛。アメリカも日本も本当の意味での「自信」を失っている。一人一人はただただ愛が欲しいだけなのに……。——渡辺真史(ブランドクリエイター)救いようのない事実を目の当たりにした。「Bully」は冷酷で残忍な子供達の実体を写しだし、つくりごとのような事実を伝えた作品だと思う。そこには物語など存在せず、子供達の日常が事実として存在するだけであった。——野村訓市(tripster/Sputnik)"海外の他所の国へとどこすか出掛けていって、バンバン爆弾を落とす国の未来を作るべき若者達の素晴らしい青春!って日本のいじめと同じでは?病んだ世界に国境の壁はない。"——drug store cowboy 石川剛(ミュージシャン)出演者に感情移入するのではなく、自分もそこに居る感覚。。。「映画」を観ている事を忘れてしまう。——香山リカ(精神科医・神戸芸術工科大学助教授)"若者たちの閉塞感"、その正体を私ははじめて見た。重い衝撃が今も続いている。——熊谷隆志(スタイリスト・フォトグラファー・GDCディレクター)このスピード感バッチリの暴走ムービー「BULLY」はリアルタイムの若い子も少し懐かしい感じのする、そして自分たちにとってもグッとくる映画なのだ。(流行通信5月号より)(順不同)